

農業技術レーダー



産学公による連携研究開発の強化 農業総合試験場長 板倉 充明

近年、農業も含め産業界は厳しいグローバルな競争の渦中にあり、画期的な新技術、新商品の開発による市場競争力の回復が強く求められています。

従来、大学と国の研究機関は基礎研究を、地方の試験場や民間企業は実用化研究と商品化を進めるといった体制が一般的でした。

しかし、最近の世の中は大変なスピードでめまぐるしく動いており、今までと同じようなペースでの新技術開発では追いつけなくなっています。

そのため、国では技術立国の再構築をめざし、産学公連携研究による新技術開発のスピードアップを科学技術振興の大きな柱に位置付け動き出しました。

県においても、地元の大学、民間の研究所、生産者団体及び国の研究機関と県の農業関係試験場が、開発課題に応じてプロジェクトを組み共同開発に当

たる事例が多くなってきていますが、今後さらに連携の強化を図っていききたいと思います。

下の写真は「長野式レタス収穫機」です。この開発については試験場の基礎研究をもとに、県テクノ財団、全農長野、片倉機器工業と試験場がプロジェクトを組んで共同開発したものであり、今年からレタス産地でモニター使用が予定されています。

これからの共同研究開発としては、各種有機資源のリサイクル技術、有機農産物等の生産技術、イネゲノムの解読等にもともなう新育種技術、猿やイノシシ等獣害対策技術、信州ブランドとなる新品種や地域特産物の育成開発等々、やらなければならないテーマはたくさんあります。

今後とも、関係機関・団体、民間企業及び生産者各位の協力をいただき、より早く研究成果をあげるよう全力を尽くしていききたいと思います。



「長野式レタス収穫機」による作業風景(農業総合試験場機械施設部圃場にて)